

プロシーディング

居宅療養管理指導について

小 林 梢

明倫短期大学附属歯科診療所

Guidance for Management of In-home Dental Long-term Care

Kozue Kobayashi

Meirin College Dental Clinic

要 旨

在宅に訪問して行う口腔管理には、医療保険で行う歯科訪問診療や訪問歯科衛生指導がある。一方、介護保険でも歯科医師と歯科衛生士がそれぞれ行う居宅療養管理指導が位置付けられている。

明倫短期大学附属歯科診療所では、医療面からと介護面から高齢者の口腔機能の維持向上を支援している。そこで、今回、実際に歯科衛生士が単独で居宅療養管理指導を行っている様子を紹介する。

キーワード：歯科衛生士，居宅療養管理指導

Keywords: Dental Hygienist, Guidance for Management of In-home Dental Long-term Care

1. はじめに

歯科衛生士の行う居宅療養管理指導とは、訪問歯科診療を行った利用者又はその家族等に対して、訪問診療を行った歯科医師の指示に基づき、歯科衛生士等が、在宅で、介護認定を受けている利用者の居宅を訪問して、療養上必要な実地指導を行うことをいう。

2. 居宅療養管理指導の一例

当診療所の所有車で、利用者のご自宅に訪問する。この日は、歯科衛生士が単独訪問している。歯科医師と2人で訪問のこともあるが、1人で伺うことは、少なくない(図1)。



図1 訪 問

居室に伺い、利用者、家族に当日の体調等を確認し、準備を開始する。器具は、診療所で使用しているものに、歯ブラシ、歯間ブラシ、ガーゼなどが追加される(図2)。

まず、施術前に、口腔内診査を行う。歯だけではなく、舌、頬粘膜、口蓋、口唇など全体的に診査する(図3)。確認後「これから、歯ブラシ始めますね」と一声かけて開始する。

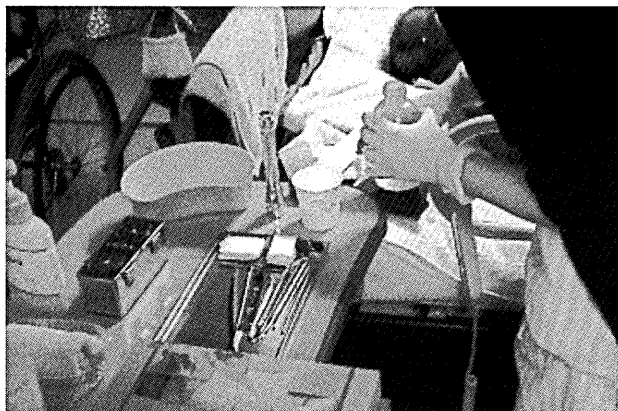


図2 準備

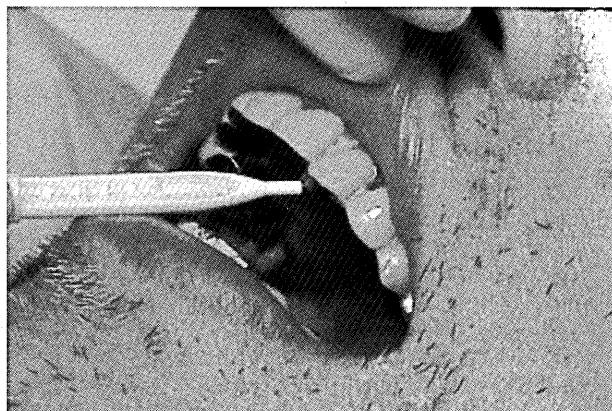


図5 歯間ブラシの使用



図3 口腔内診査

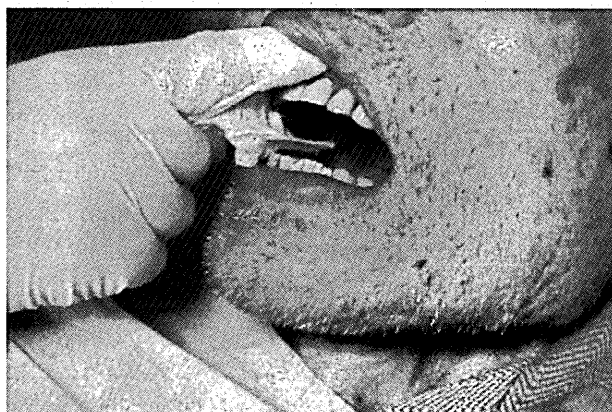


図6 ガーゼでの拭き取り



図4 歯ブラシの使用



図7 うがい

こちらの利用者は、義歯ではなく、上下顎共にブリッジが装着されているため、歯ブラシを使用し、食渣や歯垢を除去する（図4）。

この日は、家族がカメラに写りたくないという理由で、近くにはいないが、通常であれば、家族と一緒にブラッシング状態を確認し、実地指導を行う。他のケースであれば、それがヘルパーであったり、看護師である場合もある。

歯間ブラシを使用し、歯間部の清掃を行う（図5）。術中の注意点は、誤飲や誤嚥の防止である。仰向け

の姿勢で行うため、特に水分には気をつける。それが原因で誤嚥性肺炎を発症する可能性があるため細心の注意をはらっている。歯ブラシを湿らせ、いったんガーゼで水分を最小限の量にし、口腔内に垂らさないようにする。歯ブラシについた汚れは、1回1回ガーゼで拭き取り、歯ブラシは適宜、コップの水で洗う。歯間ブラシも同様。

最後に、湿らせたガーゼで、頬舌側面、頬粘膜、口腔前提、舌、口蓋などを拭掃する（図6）。口腔内にガーゼを落とさないように注意して行う。この

他にも、唾液腺のマッサージや、顔面マッサージも行っている。

ベッドを起し、うがいを行う。うがいは、可能、不可能があり、同一人物でもその日の体調に左右される。姿勢に気を付けて、口に含む水の量に注意し、むせたりしないように行う（図7）。

食渣や歯垢がないか確認する（図8）。利用者から「磨いてもらおうと気持ちいい」と言われていた。

ケアマネージャーにも、実施状況を報告している（図9）。最後に、介護保険者証の確認や、家族へのアドバイス、家族からの質問の回答をする。家族には、労いや励ましの言葉をかけるよう心がけている。

居宅療養管理指導が終わったことを告げて挨拶をする。利用者からは、「今度はいつ来てくれるの？」と声をかけられた（図10）。

診療所に戻り、担当の歯科医師に今日の報告をし、記録の記載を行い終了する。

3. おわりに

居宅療養管理指導で重要なのは、私達歯科衛生士が利用者と介護に携わる人達に、どれだけ連携を図っていくことができるかである。それが、ご家族であったり、他の職種の方であるかもしれないが、協力し合えるところは、協力し合い、ご利用者のクオリティ・オブ・ライフに貢献していくことと感じている。

文 献

- 1) 社団法人 大阪介護支援専門員協会：介護支援専門員のためのスキルアップテキスト。41-47頁，中央法規出版，東京，2008

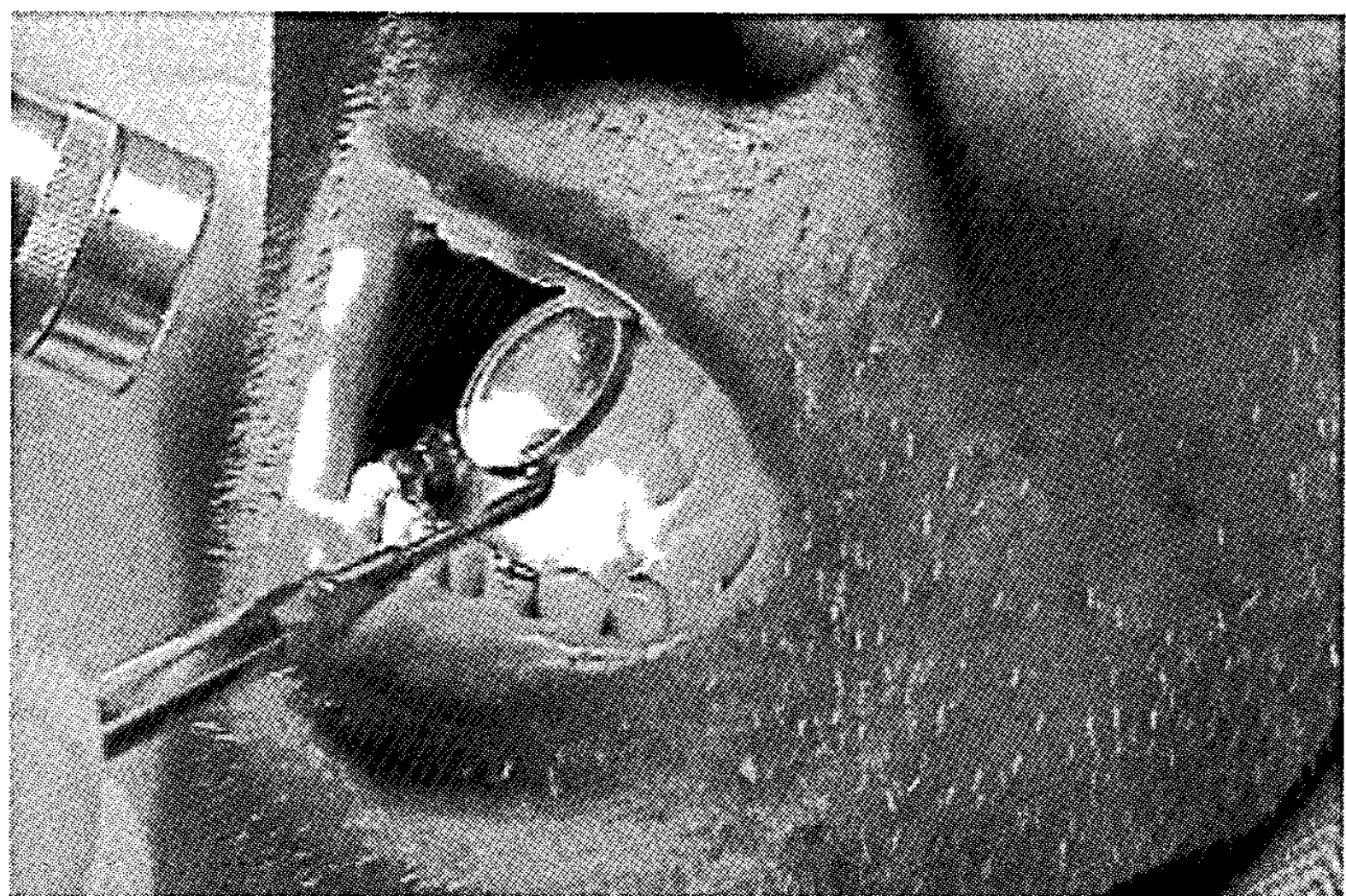


図8 確認



図9 利用者とケアマネージャー



図10 終わりの挨拶